



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 97

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 97. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1960, 97: 39-46

ISSUE DATE:

1960-10-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186950>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 97

1960. 9月(10月5日)

録 事

9月4~12日 山路委員は関西電力K.K.多奈川火力発電所の冷却用取水路の付着生物防除調査のため出張。

9月6~16日 布施委員・高松研究員は四国南岸のドレッシ標本採集のため、四国沿岸操業の内海区水産研究所の漁船に便乗。

9月12日 山路委員嚴父は老衰のため死去され、香料をおくる。

9月14日 秋季取戻旅行に第1班8名は(近藤, 左海, 布施良, 辻キ, 芝野, 渡瀬, 小芝, 稲垣) 出雲・松江方面を2泊3日で見学。

9月19~22日 内海・時間委員は“日本動物図鑑”の改訂についての編集会議出席のため上京。

9月20~22日 取戻旅行第2班3名(浦, 南, 辻)は大阪方面見学。

9月24~30日 布施委員・高松研究員は、中海方面へ魚族の潜水調査に出張。

9月27~28日 山路委員は魚介プランクトン採集機改良設計のため大阪金属工業K.K.および付着生物研究報告のため関西電力K.K.本社に出張。

水族館内水槽、玄關および事務室の模様替えも完成したので客さばきもよくなり、水槽内動物も肥やすくなった。ステンレス製の卓上角水槽(45×30)を10個購入して、大水槽の上に並べることにした。

飼育動物採集用小型テンマ船 長さ3.8m, 巾1.2m, 深さ0.4m)進水。

漸く“海の生物生態写真絵はがき”第3集が出来上がったので、10月から発売することになった。

業務概況

◎ 9月の入場回数

区 分	大 人		小 人		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
水族館発売	5362	49168	189	4717	5551	53885
団体	16076	113372	—	—	16076	113372
交通公社発売	4453	38801	—	—	4453	38801
明光バス発売	13222	122793	135	5878	13357	128671
合 計	39113	324134	324	10595	39437	334729
無 料	日次御苑、おさレ急館従業員				90	935

團體：一般 199組，學生 1組 合計 200組

◎ 9月の事業収入

(今年度累計)

観光券売上金	959,247	5,846,868
{ 窓 口 売 上	387,425	2,840,669
{ 交通公社クーポン	78,672	677,409
{ 明光バス観光券	493,150	2,328,790
※		
予金・積立金利息	39,840	332,885
手 数 料	50,597	288,405
絵はがき 拂 下	5,480	169,550
パンフレット 拂下	1,080	54,420
魚 菜 拂 下	—	200
差 収 入	520	3,805
合 計	1,056,764	6,696,133

※ 明光バス観光券未収分	大人券	16317枚
	小人券	524枚

◎ 9月の支出

永族館經費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	101,662	697,434	
会 議 費	4000	110,864	
備 品 費	58,210	264,510	テンマ貯、置水槽
消 耗 費	26,928	155,337	
事 業 費	68,897	273,918	
維 持 費	—	23,830	
其 他 諸 手 続	60,993	423,360	旅費慰勞費及山路委員へ香料
積 立 金	150,397	1,229,707	
合 計	471,087	3,178,960	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	37,010	8,348.1	内容・問題・研究要綱
奨 学 金	—	6,000.0	
備 品 費	78,000	14,121.5	リュビ-333
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	9,075.6	
役 務 費	54,350	12,337.0	新聞・雑誌の 論文原図撮影フィルム代
合 計	169,360	1,315,626	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	38,200	257,889	
備 品 費	—	1,200	
消 耗 費	—	2,350	
役 務 費	—	8,980	
合 計	38,200	270,419	

臨時費

備 考	金 額	累 計
自他式プランクン採集機試作費	6,380	
合 計	6,380	178,818

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	471,087	3,178,960
実験所経費	169,360	1,315,626
伝物館経費	38,200	270,419
臨時費	6,380	178,818
合 計	685,027	4,943,823

◎ 8月末現在高

前月よりの繰越	1,380,573
今月の収入合計	1,056,764
今月の支出合計	685,027
現 在 高	1,752,310

◎ 前年度との比較

	1959	1960	増 減
入 場 者 数	29888	39437	+ 9549

水族館記事

- ◎ 館内水槽の模様替えもほぼ終って、大アールも完成したので、ひんぱんに魚の購入をはじめた。30日現在55種、300個体以上収容している。入槽した魚で大型のもの、数の多いものは次の通りである。

1. <u>イサギ</u>	3日	103個体	
2. <u>コトヒキ</u>		36個体	
3. <u>アカマツカサ</u>	19日	21個体	N0.22水槽
4. <u>クエ</u>	29日	2個体	全長約74cm., 約70cm.
5. <u>ハモ</u>	11日	1個体	全長約1.25m

- ◎ 25日にマテラトビエイが入槽した。体長約50cm, 全長約2mのもので、大アールに収容したが翌26日死亡した。

- ◎ 帯魚類も多数入槽した。タキベラ(5), ルリハタ(1), チョウチョウウオ(5), キハツソク(5), ミギマキ, カマスベラ(3), クマノミ(1), ミツボシリュウキュウスズメ(1), モンガラカワハギ等(カッコ内は入槽個体数), 水槽を一時賑わせたが, モンガラカワハギ, カマスベラ, キハツソクを除いて全滅した。

- ◎ 9月30日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計129種、1448個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	2種,	カブトカニ類	1種,	ウミシタ類	1種,
ヒドロ虫類	1種,	フジツボ類	2種,	ヒトデ類	2種,
ウミトサカ類	2種,	エビ類	7種,	ウニ類	8種,
ヤギ類	3種,	ヤドカリ類	4種,	ナマコ類	4種,
イソギンチャク類	5種,	カニ類	4種,	軟骨魚類	1種,
イシサンゴ類	7種,	二枚貝類	6種,	硬骨魚類	54種,
ハナギンチャク類	1種,	巻貝類	8種,	カメ類	3種,
多毛類	2種,	アメフラシ類	1種,		

資 料

- ◎ 9月の気象 (9時観測)
 南水槽室 (水温・比重はN0.25水槽)

	上旬	中旬	下旬
晴天日数(17)	4	5	8
室 温(°C)	$\frac{25.3 \sim 28.7}{27.0}$	$\frac{25.2 \sim 28.4}{26.6}$	$\frac{22.5 \sim 27.8}{25.0}$
水 温(°C)	$\frac{25.69 \sim 27.93}{27.08}$	$\frac{25.92 \sim 27.13}{26.47}$	$\frac{24.21 \sim 26.89}{26.05}$
比 重(015)	$\frac{2115 \sim 24.89}{22.56}$	$\frac{22.63 \sim 24.63}{24.06}$	$\frac{24.49 \sim 24.86}{24.6}$

取入口

水 温(°C)	$\frac{26.73 \sim 28.39}{27.57}$	$\frac{26.27 \sim 27.39}{27.03}$	$\frac{25.39 \sim 27.83}{26.83}$
比 重(015)	$\frac{2022 \sim 24.26}{23.07}$	$\frac{23.96 \sim 24.89}{24.33}$	$\frac{24.15 \sim 24.97}{24.74}$

来 訪 録

- 9月1日 京大林学科学生12名水族館・実験所見学。
 9月2日 東京の青森県三田店販縮股知念氏が新設計画中の第3水槽室の冷暖房装置設計図が完成したので現場調査のため来所。
 9月9日 大阪市大生物学教室の松谷幸司氏は実験用 *Tigriopus* の材料採集とその飼育海水採取のため来所。
 9月10日～11日 渋谷清氏はウミウシ類の幼生研究のため来所。
 9月20日 長崎水産試験場三井所西郎技師は水産研究生を引卒し、水族館飼育施設見学のため来館。
 9月22日～23日 船上場工事の中間検査のため技術課吉村技官来所。
 9月26日～30日 佐伯築設工務K.K.社員4名は田辺湾江津良沖の海上観測塔設置水面付近の深浅測量のため来所。

水族館の模様替写真

高松研究員撮影



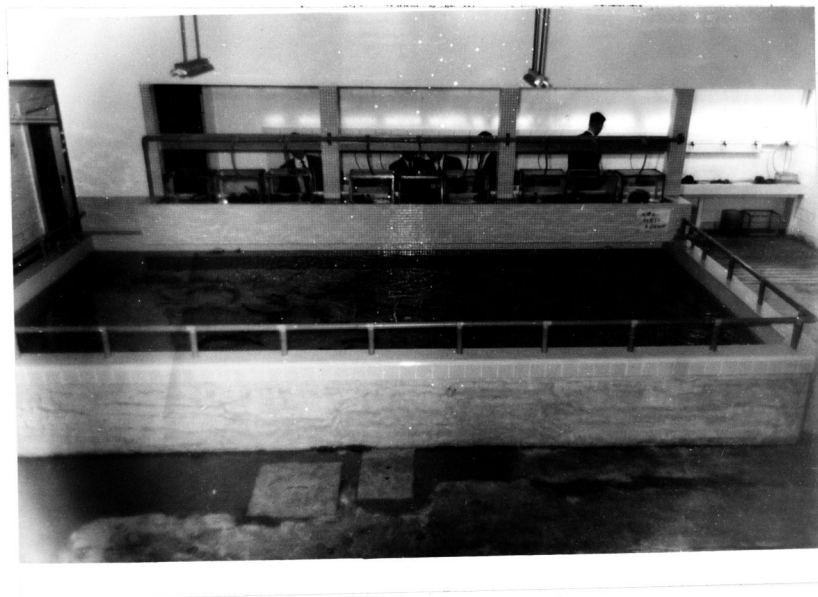
水族館玄関 柱は御影石の洗い出し、柱根は磨き出し。
前面壁は紀北産の青石たたみ、事務室切符発売所には1×2mの透
明ガラス張りで外側はシャッターを付けた。



事務室内部、広さ $5.45\text{m} \times 3.88\text{m} = 21.07\text{m}^2$



観覧室 淡緑の水槽蓋蔽板，玄関右側に位置替した大水槽と卓上水槽。



大水槽と卓上水槽 大水槽はうす青色のタイル張り，縦2.80 m，横6.0 m，深さ0.9 m，容量約150 ㍓，水かわりもよく，魚疾の治も良好。

昭和35年10月5日 (NO. 97)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸内海実業振興会
和可山県白浜町
瀬戸内海実業振興会
(Tel. 白浜温泉 515)